令和３年度鎌倉市冒険遊び場協働運営事業推進検討委員会　議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 日時： | 令和３年１月17日（月）10時30分～11時45分 |
| 場所： | 鎌倉市役所本庁舎２階第２委員会室 |

議事次第

１　　開会

２　　事業報告

1. 協働団体　NPO法人鎌倉冒険遊び場やまもり
2. こども支援課

３　　質疑応答・意見聴取

４　　閉会

委員出欠（敬称略）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 氏　名 | 選出団体等 | 出欠 |
| 礒部　久仁子 | 鎌倉市立小学校長会 | 出 |
| 河野　匡孝 | 鎌倉市社会福祉協議会 | 出 |
| 志村　直愛 | 東北芸術工科大学　デザイン工学部　建築・環境デザイン学科　 | 出 |
| 髙麗　宏子 | 鎌倉私立幼稚園協会 | 出 |
| 出川　克己 | ＮＰＯ法人　鎌倉市市民活動センター運営会議 協働事業推進部会 | 出 |

１　開会

**正木課長**

大変遅れて申し訳ございませんでした。こども支援課担当課長の正木です。本日はよろしくお願い致します。また、不手際がありまして申し訳ございませんでした。

ただいまから令和３年度　鎌倉市冒険遊び場協働運営事業推進検討委員会を開始いたします。

本日はお忙しい中ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

開催に際しまして、こどもみらい部次長の永野よりご挨拶申し上げます。

**永野次長**

皆様、おはようございます。こどもみらい部次長の永野と申します。本日は令和３年度鎌倉市冒険遊び場協働運営事業推進検討委員会へ御出席いただきまして、ありがとうございます。

この週末も、新型コロナウイルス感染症に関しましては、PCR検査を受けた等情報が多数寄せられておりまして、予断を許さない状況です。

鎌倉市の子ども関連の施設におきましても、最大限の感染拡大防止対策を実施しながら運営しているところですが、早期の収束を願ってやまないところです。

さて、冒険遊び場協働運営事業は令和元年11月の事業開始から２年が経ちました。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、臨時休館とした期間もあったため、今年度は今後の状況にもよりますが、初めて１年間を通して運営できる年となりそうです。

冒険遊び場事業については、鎌倉市の豊かな自然環境を活かして子どもたちが活き活きと遊ぶことのできる遊び場の提供を目指しているところであり、鎌倉市の子育て環境をよりよいものとするために、皆様にご意見を頂戴する機会は大変有意義であると思っております。

本日は、オンライン会議ではありますが、忌憚のない御意見、御提言をいただきますようお願い申し上げまして、私からのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

**正木課長**

委員の皆様方には先日、資料と併せて委嘱状をお送りしております。お名前をご確認いただ

き、お納めくださいますようお願いいたします。

　委員改選後初めての会議になりますので、委員の皆様を五十音順に紹介させていただきます。

鎌倉市立小学校長会　　磯部　久仁子　様

鎌倉社会福祉協議会　　河野　匡孝　様

東北芸術工科大学　デザイン工学部　建築・環境デザイン学科教授　志村　直愛　様

鎌倉私立幼稚園協会　　高麗　宏子　様

認定ＮＰＯ法人　鎌倉市市民活動センター運営会議・協働事業推進部会　出川　克己　様

鎌倉市冒険遊び場協働運営事業推進検討委員会設置要綱　第５条、第２項におきましては、委員会は委員の過半数が出席しなければ開くことができない、とされていますが、本日は委員５名中、全員ご出席をいただき、定足数を満たしておりますことをご報告申し上げます。

それでは次に当委員会の委員長・副委員長の選出に移りたいと思います。

鎌倉市冒険遊び場協働運営事業推進検討委員会設置要綱　第４条、第２項によりますと、委員の互選ということになっておりますが、今回オンライン会議ということもありましたので、委員長には前回の会議から引き続き志村委員に、副委員長は、前回の会議まで社会福祉協議会からご出席されている委員にお願いしておりましたため、河野委員にお願いさせていただきたいと考えておりますが皆様いかがでしょうか。

**正木課長**

ありがとうございます。

それでは、恐縮ではございますが、委員長を志村委員に、副委員長を河野委員にお引き受けいただきたいと存じます。

つきましては、志村委員長に、この後の議事進行をお願いできればと思います。よろしくお願いいたします。

**委員長**

では、ご指名にあずかりましたので、当会議の委員長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

コロナがまた広がってきまして、社会的な動きが今後どうなるのか気になるところではございますが、皆さまお変わりなくお集まりいただきありがとうございます。

鎌倉の市民協働は、非常に期待の大きい中で、なかなか進まないということも語られているところではありますが、この冒険遊び場事業につきましては、かなり順調に実施できているものとして、色々なところから良い評価を聞いております。

皆さま、ご支援・ご検討いただいた結果として望ましい協働の形が取れているように思います。

本日また、点検作業のようなものとなりますが、ぜひ良い協働事業の進行のために、皆さまから忌憚ないご意見をいただければ大変有難いと思います。

どうぞよろしくお願い致します。

それでは、次第に沿って進めてまいりますが、最初に、こども支援課から本日の委員会の概要について説明をお願い致します。

**中村係長**

それでは、本日の委員会の概要について、ご説明させていただきます。

まず、本委員会の主旨でございますが、鎌倉市冒険遊び場協働運営事業の推進に関し、検討するための幅広いご意見をいただくことを主たる目的とするものです。

本日は、令和３年度の事業報告をさせていただくとともに、今後の事業につきまして、委員の皆様からご意見をいただきたいと考えております。

鎌倉市冒険遊び場協働運営事業の概要としましては、令和元年11月から実施している事業でございまして、事業開始時からNPO法人かまくら冒険遊び場やまもりを協働団体として、継続して実施しているものです。

本日NPO法人の３名の方が来ております。先に簡単にご紹介致します。

**NPO法人かまくら冒険遊び場やまもり**

ご紹介にあずかりました、NPO法人かまくら冒険遊び場やまもり理事長の坪井です。よろしくお願い致します。また、同メンバーの長谷川と松山になります。

本日はこの３名でご説明させていただきますので、よろしくお願い致します。

**中村係長**

本日の委員会での進め方でございますが、まず、いまご紹介させていただきました「NPO法人かまくら冒険遊び場やまもり」から、令和３年度の事業報告をさせていただき、運営内容や利用者の安全管理など施設運営に係る部分についてご説明させていただきます。

その後、こども支援課から同様に令和３年度の事業報告として、事業実施における市の役割や事業費、利用者数の推移などをご説明させていただきます。

質疑応答は、協働団体及びこども支援課からの説明が全て終わり次第行いたいと思います。

そして最後に、資料４「意見回答用紙」に記載の項目につきまして、委員の皆様からご意見をいただきたいと思いますので、後日、回答用紙をこども支援課宛にお送りいただきますようお願いいたします。

２　事業報告

（１）―NPO法人かまくら冒険遊び場やまもり―

**委員長**

こども支援課からの説明や、本日の進行に対してご意見やご質問はございますか。

それでは、これより次第１の、協働団体による令和３年度鎌倉市冒険遊び場協働運営事業　事業報告に移ります。

こども支援課より注意事項等あれば説明をお願いします。

**中村係長**

説明は20分以内でお願いいたします。

それでは、よろしくお願いいたします。

　　**NPO法人かまくら冒険遊び場やまもり**

先ほど、こども支援課さんからの説明にもありましたとおり、本事業が始まってコロナ等で休館もございましたが、今年度は緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発令中も、感染症対策を十分に実施しながら、１年を通じ開館することができました。今年度の成果を報告させていただきます。

目次をご覧ください、１事業実績と成果では、今年度の実施内容や、来場者の様子と来場者数をお伝えし、どのように利用されているか、どんな声やニーズがあるのか、お伝えいたします。

２の安全管理では、日々の危機管理や対策を挙げ、安全管理への反映をお伝えいたします

３、４では今年度の課題に対して実施した内容や、今後に向けての課題を挙げ、令和4年度の事業につなげていく項目をお伝えいたします。

では目次に沿って今年度の事業について報告してまいります。

３ページ目、事業実施内容からお伝えします。

昨年度は完全予約制でしたが今年度の4月からは予約なしでも来場できるようになりました。

また今年度より裏山部分の敷地が広がり、外遊びを十分に楽しめるようになりました。感染症対策の面からも密を避けることができ、安全な場を提供できました。

イベントについては、講師謝礼やスタッフ代の予算が付かなかったため、勤務スタッフが内容を工夫して、昨年同様の内容でイベントを継続しました。

子育て支援、地域交流の場としての情報発信を行いました。会館内の掲示や、Facebookを活用しています。市のLINE配信も大変効果があります。

他団体との情報交換、青空自主保育団体との連携なども積極的に行っています。来場者から子育て情報のご質問も多く、できるかぎりお答えしています。

今年度は、NPOセンターの会員にもなり、社共の多世代交流の情報も掲示させていただきました。

４ページ目です。こちらの来場者の様子、20ページの「今年度の新しい取組」を説明させていただきます。

裏山の平地部分が常時遊び場となり、イベント開催も可能となりました。密を避けることもできます。地続きにある峯山を、来場者の方々に知ってもらうきっかけにもなりました。

施設から外の土場、山へのアプローチとなる斜面の階段は、子どもたちと一緒に作業し、頂上まで増設しました。土場に道具箱を設置したことで、幼児でも自由に道具の出し入れができるようになりました。

来場者のニーズを取り入れた遊びやイベントを開催しています。

７月に子ども主催の「なつまつり」を行いました。学校行事や地域行事が縮小傾向にあるため、子どもらしいアイディアで盛り上がりました。

地域の子育てサロンが中止になるケースが多く、子育てイベントは少人数で室内外を利用し、子育てママの要望も取り入れて行っています。

写真は運動会シーズンに行った「ハイハイかけっこ大会」の様子です。

では、戻りまして、４ページの来場者の様子を季節ごとに説明します。

春の様子です。

保護者の引率なしで張り切って来館する１年生が印象的でした。放課後の時間、ホールや山の上でのびのびと遊んでいます。

写真入りのチラシを市内全小学校、希望する幼稚園・保育園にも配布し、大変効果がありました。この時期は下校時の寄り道や迷子が多々あるとの情報があり、周辺の見守りや市の安全パトロール、深小校外委員からの情報も取り入れました。

　　　５ページ、夏の様子です。

コロナ禍で何かと決まり事が多い中、少しでも心と体を解放できる遊びを考えました。土場では裸足でどろんこになったり、昨年度よりパワーアップしたウォータースライダーや水遊びは大人気でした。遊びを終えた子どもたちのさっぱりとした顔が印象的でした。「なつまつり」は準備から店番、片付けを張り切って行いました。

木工遊びは年中人気で、毎日10人ほどが終日お弁当を持参し、昼寝をする子どももいました。

６ページ、秋の様子です。

夏以上に外遊びが充実します。虫を捕まえて図鑑で調べたり、木の実を収集して楽しみました。

11月の開館２年のお祝いには山でくす玉を割り、クイズラリーを楽しみました。

雨の日は、青空自主保育団体の活動場所、お昼のお弁当の場所としての利用があり、大変感謝されています。たまたま居合わせた乳幼児親子も一緒に遊んで、地域の情報交換をしていました。10、11月は「鎌倉に引っ越してきました」との声もよく聞かれました。

７ページ目、冬の様子です。

本がたくさんある部屋にホットカーペットを敷きました。蔓延措置期間から解放されると学校行事も増え放課後は、まったりと横になって遊んでいる様子が見られます。

木々が枯れ始めると山の上も広々となって遊びやすくなります。鎌倉みどりのレンジャーさん10名に大規模な草刈り、竹や枯れ木のせん定を行っていただき、安全に過ごすことができています。

８ページ目、来場者の人数について報告します。

令和元年度は３か月で1,321人、令和2年度は９か月で3,331人、令和3年度８か月で 4,382人　となっています。

今年度の1日の平均来場者数を報告します。

平日は約20人前後、土曜日は28人、春以降は50人前後に増えました。

９ページ、10ページは表をグラフにしたものです。今年度になり、大変利用が増えていることが分かります。

11ページ目、夏休みの平均来場者数です。平日は55人、土曜日が48人　でした。定員いっぱいに使っている状態です。

４月からは予約がなくても来場可能となり、来場者数が上がったと思われます。

７月からは昼食を取れるようになり、夏休みはお弁当持参で１日中遊ぶ子どももいました。遠方へのレジャーが減り、市営プールも定員制で利用が面倒なため、長時間安心して過ごせる遊び場は保護者からの関心や理解も高まったように思います。これは、夏休みの来場者数が、平日の方が多いことからもわかります。

11ページ・12ページ、利用例をご紹介します。

平日の午前中は未就園・未就学児、午後は園児や小学生、近隣の来場者が多く、土曜日は終日、市内外から来場しています。

平日の小中学生の主な利用は、15時頃からと短い時間ですが、友達と待ち合わせしたり、その時いる子と一緒に遊び、学年を越えて友だちの輪が広がっています。時間のある土曜日は、お弁当持参でたっぷりと遊んで行く子が多くいます。

今年度は特に、登校していない子や登園を自粛した親子が、午前中の居場所として利用していることもありました。未就学児と小学生が一緒に遊べる唯一の施設として、必要とされていることを感じます。保護者の在宅勤務が多くなり、家での遊びや、日中の子どもとの接し方に不安を感じて来場されるケースもありました。そのような時は、スタッフが相談相手になれるよう努めています。

13ページ、団体の来場者についてです。団体利用は月平均として約2団体、来場者数は冬が22人、春、秋が33人前後となりました。現在は約１０団体の団体登録があります。

青空自主保育・家庭保育の方が雨の日に利用しています。いつもは外で遊んでいる子どもたちも雨の時は2階のホールでのびのびと過ごしています。

また、つい先日、横浜国立大学付属小の34名が校外学習の場として遊び場で一日過ごしました。

14ページ、地域別の利用です。

地域別利用は、平日は深沢地域が主ですが、土曜日や長期休みには深沢地域以外の利用も増えています。

続きまして、15、16ページのご説明をさせていただきます。

子育てイベントは、親子サロンと称し、月に2回乳幼児親子を対象に、季節に応じた内容を企画しています。

参加者は主に0～2歳児で、イベントをきっかけに遊び場を知っていただける機会となっています。家では躊躇してしまう泥遊びや絵の具遊びができ、初めての遊び体験を嬉しそうに見守る保護者の姿が印象的です。

コロナにより就園前の乳幼児親子の出会いが非常に減っている傾向があり、なかなか外出する機会がないので出かけるきっかけになっている、同世代の子と知り合えて嬉しいという声を頂いています。子育て支援センターでは物足りなくなった子や、兄弟で利用できる場として重宝されています。

今後の新しい取り組みとして、保育コンシェルジュなど、相談できる方をお招きし、イベントを検討しています。

続きまして、順番が前後しますが、18ページの地域イベントについてご説明します。

地域イベントは年に１度、地域の方々との交流を目的に実施しています。唯一、大人だけで来場できる日となっており、今年度は12月に開催しました。写真にありますように、深沢中学校美術部の生徒さんに、施設内に張りめぐらせた大きな落書きコーナーに絵を描いてもらいました。外では、鎌倉みどりのレンジャーさんを講師に、丸太切り体験を実施しました。切り応えのある立派な丸太は長谷幼稚園さんとみどりのレンジャーさんからご厚意で頂いたものです。

この日は、常連の小学生が子どもスタッフとして、準備からレクチャーまで責任をもって行うコーナーもあり、終了後は達成感に満ち溢れていました。学区の深沢小学校の子どもたちは遊びのリーダーとして大活躍しています。

続いては、出張冒険遊び場です。17ページをご覧ください。

出張冒険遊び場は、市内各地に遊びを届ける目的で、昨年までは月に一度開催をしてきました。残念ながら、今年度はコロナの影響で予算がつきませんでしたが、何とか継続したいという想いで、10、11月に２回実施しました。

遊び場の敷地のすぐ上にある峯山に出かけてみよう、という新しい試みで、遊び場から峯山までみんなでお散歩しました。細い山道を抜けると、山頂からは海まで見える見晴らしのよさ。みなさん自然を満喫していました。峯山の会の方も顔を出してくださり、子どもたちがのびのびと走り回って楽しんでいる姿を見て喜んで下さいました。

地域の方々が子どもを取り巻く環境に寄与してくださり、我々もつなぎ役となることで、子どもたちが安心した環境で過ごせるという事例だったと感じています。

協働事業でかなわない部分は、法人の助成金事業として今年度９回開催しました。普段できないことができたり、土日しか来ることができない子のため、出張冒険遊び場はとてもニーズが多いです。

来年度は、鎌倉市との協働事業として再開できるようにと願っています。

以上、３つのイベントについてご報告させて頂きました。

続きまして、19ページです。

ここでは利用者の声の一部をご紹介しています。21ページの遊び場の特色と併せてご覧ください。

子どもたちからは、自分が来たい時に予約なしで来れるのがいい、家や公園ではできない遊びができる、自由に過ごせる、やりたいことを手助けしてくれる大人がいて嬉しい、スタッフが話し相手・遊び相手になってくれるのがいい、という声が多くあります。

また深沢地域は学区が広いため、学校からそのまま遊びに行きたい、という子どもたちの声も多く、保護者からも同様の意見が多く寄せられています。

保護者からは、家ではやらせてあげられない遊びをさせてもらえてありがたい、子どもがのびのびと過ごしている様子がわかる、という声を多く頂いています。また長期休みに他の施設と遊び場を併用できたのがとても助かった、という声もありました。

また、今はお弁当を食べられる施設がないので、年齢問わず喜ばれています。

少数ではありますが、学校に行っていない子のホッとできる場所にもなっており、保護者からは家族以外の第三者と関りを持てる貴重な場になっているとの声がありました。

最近では、乳児を連れたお母さんが、「大人の話し相手を探しています」と来場され、スタッフと話して気持ちがほぐれた様子でした。

このように、遊びだけでなく、様々な境遇、色々な思いを抱えて、足を運んで来られる方がいます。私たちは、そのような様々な人を受け止められる居場所としても、役割を果たしていきたいと思います。

21ページに挙げているように、このような特色を持つ施設は鎌倉市内では、かまくら冒険遊び場・梶原だけです。これらの遊び場のいいところが利用者の方に徐々に浸透してきているのを感じています。これからもよりよい地域の居場所となっていけるよう努めていきたいと思います。

続いて、安全管理についてご報告します。22ページをご覧ください。

日常の危機管理として、屋外についてお伝えします。

今年度、裏山の敷地が広がったことにより、日常的に山で遊べるようになりました。

昨年度までの外の敷地の山は平地がほとんどなく、乳幼児が安心して過ごせるエリアが一部でした。そのため、小さい子が簡単に山の入り口に行けてしまうと危ないと考え、あえて登りにくい梯子の階段にしていました。

しかし、裏山の上の平地が敷地となり、安心して遊べるようになったため、梯子階段から手すり付き固定階段に変え、山頂までの階段を増設しました。

これにより、乳幼児親子や、妊婦の方も安全に裏山に行けるようになり、山の上でブランコをしたり、笹や竹を使って基地づくりをしたり、年齢問わず楽しめるようになりました。

これらの新設した階段は、チェックシートを更新し、日々安全確認を行っています。

続いて23ページ、屋内についてです。引き続き、道具や工具の本数管理を徹底しています。

使用する際はスタッフが必ず見守りに入り、必要な場合は手伝います。

手伝う時は、子どものやりたい思いを大切にするため、経験にあわせて加減しています。

今年度はコロナ感染症の影響で、まだ実施できていないのが、子どもと一緒に行う防災・防犯訓練です。年度末までには実施したいと考えています。

24ページをご覧ください。訓練の実施、講習会の受講についてです。

掲載している講習項目を受講しました。こちらの講習を受講することにより、スタッフのスキル向上や対応の強化を図りました。

講習を受けたことにより、見守りのスタンス、安全に対する理解を深めました。

救命救急講習においては毎年全員が受講し、万が一の際にしっかりと対応できるよう努めています。

新型コロナウイルス感染症対策についてです。25ページをご覧ください。

引き続き、チェックリストをもとに、毎日、消毒や換気などの対策を実施しています。

４月は緊急事態宣言下でしたが、感染対策を徹底させ、予約なしでの来場、屋外での昼食ができるようになりました。

７月下旬には、熱中症の危険性を考慮し、人数制限や換気・黙食・密を避けるルールのもと、屋内での昼食も可能となりました。

感染者数が落ち着いてきた10月には、人数制限を緩和しました。

このように、都度、こども支援課と相談しながら、最良の方法・対応ができるように努めています。

26ページ、今年度の成果です。

資料にありますように、今年度の成果をあげました。

地域交流・多世代交流の活性化の成果として、地域イベントでは、常連の方だけでなく多くの方が参加してくださっています。高校生以上の大人のみの利用については、夏休みのサポートスタッフの受入れや、学生たちの研修先としての利用もありました。サポートスタッフには地域の保護者に登録をしていただき、地域での広がりに期待を感じています。

２つ目、子育て親子の支援についての成果です。子育てイベントでは、企画内容が喜ばれるだけでなく、子育て相談や情報交換の場にもなっています。

また、日頃より、スタッフが身近な話し相手として関わることも必要だと感じています。時には専門家とのパイプ役となり、連携を図ることもあり、何か未然に防ぐことにもつながると考えております。

３つ目、スキルや対応の強化は、安全管理の箇所にてご説明させていただきました。

このように今年度は多くの成果をあげることができたと考えます。

また、顔なじみの子どもたちも増え、大人も一緒に遊び、見守ることで、「子どもを真ん中にした居場所作り」が定着してきました。

今後もこの成果を、日々の見守りや、対応に多く反映し、日々スタッフ共有をはかり、更新していけるよう取り組みます。

27ページ、今年度の課題と対策、そして今後に向けてお伝えします。

１つ目は、今年度実施できなかった出張冒険遊び場の開催です。

今年度よく聞かれた声として、「出張やっていないね」、「私のところにもぜひ来てください」といった声がありました。イベントの項目で説明したように、今年度は施設周辺で２度の開催となりました。来年度は昨年度同様、鎌倉の各地域に、冒険遊び場を届け、小さな子から大人まで遊べる場を作りたいと考えています。

２つ目、昨年度に引き続き、地域交流・多世代交流の活性化です

前年度の項目でも挙げましたが、コロナの影響により、予定していた地域のイベントへの参加が中止となったこともありました。

これからも交流を更に広げて、遊び場を知ってもらい、お互いに盛り上げていきたいと考えます。

また、周辺施設や地域主任児童員、警察、学校などと連携をはかり、まち全体が安心して過ごせるよう取り組んでいきたいです。

３つ目、来場者ニーズの拾い上げです。

通年での開館ができ、顔なじみの子どもたちや、よく来る子育て親子などが増えました。

ここで得られる、子ども、保護者、周りの方々の生の声を聞き、地域のニーズを捉え、地域に必要とされる居場所作りを進めていきたいです。また、市内各地への出張冒険遊び場作りへも反映し進めて行きたいと思います。

最後に、１年を通して事業を実施したことで、冒険遊び場事業の必要性を強く感じております。

変わりゆく社会環境だからこそ、子どもには「遊び」と「遊びを通じて心を通わせ、ほっとできる居場所」が必要です。そのために、子どもに関わるすべての方々と協力し、冒険遊び場事業を発展させていく努力をしてまいります。

以上、今年度の事業報告とさせていただきます

ご清聴ありがとうございました。

（２）―こども支援課―

**委員長**

ありがとうございました。それでは、次に、こども支援課による令和３年度鎌倉市冒険遊び場協働運営事業　事業報告に移ります。

**中村係長**

こども支援課より、令和３年度の事業報告をさせていただきます。

お手元の資料３に沿って説明させていただきます。

はじめに、事業における役割分担についてご報告させていただきます。１ページをご確認ください。

まず、１ページをご覧ください。事業における役割分担についてご説明させていただきます。本事業において、市が担っている役割は大きく２つございます。

冒険遊び場の運営に係る役割として、協働事業者への負担金や施設の光熱水費など、事業実施に必要な費用の支出や、事業実施地の使用手続き、運営する上での課題の共有等、協働事業者との連携が挙げられます。

役割のもう一点は、市民の皆様への広報、周知です。

市ホームページや広報かまくらへの掲載、市公式LINEにおけるイベントなどの情報配信を行うとともに、年間３回のチラシの印刷及び公立小中学校などの各施設への配付を実施しています。

なお、子育て支援に関する事項として、協働事業者が実施している事業以外につきましても、講座等の情報が記載されたチラシの掲出・提供を行っています。

具体的な協働事業者の連携としましては、月に１回以上の定例会議を開き、運営内容等における問題点を共有し、事業内容の改善を図っています。

今年度も昨年度に引き続きコロナ禍であったため、基本的な感染防止対策を実施しながらの運営となりましたが、感染拡大状況等を見極めながら、利用者のニーズを反映し、屋内での昼食利用を可能とするなど、その都度見直しを行ってきました。

次に、事業費の執行状況についてご報告させていただきます。

事業費につきましては、施設管理費と負担金に分けてご説明させていただきます。

どちらも、通年予算と令和３年11月末日時点のおける２か年分を比較しています。

まず、施設管理費につきまして、３～４ページをご覧ください。それぞれの費用の支出理由は、用途に記載のとおりです。

特筆する事項としましては、電信料の増額と維持修繕費の執行が０となっている点です。

電信料については、今年度当初、施設に光回線を敷設したため、回線使用料分が今年度から増額となっています。

維持修繕費につきましては、11月末の時点では執行が０となっていますが、年末年始の休館期間に合わせ、１階と２階の床修繕を実施しました。

次に、協働事業者へ支出している負担金について、ご説明させていただきます。５～６ページをご覧ください。

内訳は、用途に記載されているとおりでございますが、施設運営に係る人件費や交通費、消耗品費等となっております。なお、令和３年度の期間全体では、6,218,160円の運営費を予定しております。

２～４のイベントに係る費用については、今年度イベント実施に係る費用の削減を全市的に行ったことから、０円としていますが、一部イベント経費については、冒険遊び場運営費に計上しています。

事業の執行については、イベントを縮減するなど、十分に実施できなかった部分もありますが、施設の利用者数においては、増加傾向にあります。

７ページをご覧ください。これは、月合計の利用者数の推移です。

事業開始が11月だったため、グラフは11月からの年間表示になっています。

左から順に、令和元年度、令和２年度、令和３年度の利用者数となっています。

特にご注目いただきたいのは、夏休み期間中７月～８月の状況です。

令和２年度よりもさらに多くの子どもたちが利用しており、８月では900人を超えています。

８ページのグラフは、各月における１日の平均利用者数をあらわしているグラフとなっています。年々伸びているのが分かります。コロナの影響もあるので、平時と運用が異なる部分もありますが、夏季含め、平均的に増加していると感じています。

９ページのグラフは、地域別の月平均利用者数をあらわしているグラフとなっています。深沢地域が７割以上を占めていますが、今年度は鎌倉地域からの利用者も増えていることが分かります。

今年度は、昨年度より収容人数の制限は緩和しましたが、引き続き感染拡大防止対策を実施してまいりました。

緊急事態宣言発令中などは特に、不要不急の外出を控えるなどの意識があったと思われますが、利用者は増加傾向にあり、事業の認知度が高まっていると感じています。

事業全体としましては、先ほども申し上げたとおりコロナ禍ということもあり、イベントの縮減など、当初の計画どおり事業が実施できないこともありましたが、年間を通して利用者数は増加傾向にあり、特に夏休み中については多くの利用があったことから、子どもたちが自由に生き生きと遊べる遊び場として地域に浸透してきている様子が見られます。

最後に、本事業の今後についてご報告させていただきます。

来年度で事業開始から３年が経過することから、一つの区切りとして、今後の事業の実施方法を再検討していく予定です。

３年間とは言っても、１年を通して実施できたのはこの１年であり、加えて平時ではなくコロナ禍での１年だったため、事務局としましても、事業の今後はまだまだ読めないと感じているところではありますが、協働事業を所管している地域のつながり課から、協働事業のガイドラインが策定されるという動きがございます。

本事業も、そのガイドラインに沿って進める必要がありますので、今後はこれまでの事業実績や、ガイドラインを参考に考えていきたいと思います。

以上で、簡単ではございますが、こども支援課からの報告を終えさせていただきます。

３　質疑応答・意見聴取

**委員長**

ありがとうございました。コロナ禍という判断が難しい時期の中で、適切な運営をしていただけていると思いました。

それでは、質疑応答に入らせていただきます。協働団体及びこども支援課からの説明に対して、質問やご意見がおありになる方は、いらっしゃいますでしょうか。

　　**出川委員**

今のご報告にもあったのですが、会館の裏山の峯山へのルートを峯山の会の方たちと一緒に作ったというのは、峯山の会の方たちと会館を運営するやまもりの皆さんが子どもたちのために努力をしたというのを見て、また私も実際に歩いてみて、素晴らしい活動を子どもたちのためにしているとつくづく感じています。

鎌倉には数多くの市民活動団体がありますが、先ほどご説明にもありました、緑のレンジャーあるいは峯山の会の方たちなど、他の市民活動団体とつながって、より良い子育てをしていることに感動しています。

　　**委員長**

ありがとうございました。鎌倉は市民活動に熱心な方がたくさんいらっしゃるのは有名なところではありますが、こういった公共公益的なじぎょうに対して、色々な協力者の方が一緒になってやられるというのは、理想的な形だと思います。

いい事例だと思うので、こういった事例は紹介していくと他の市民グループの皆さんの刺激にもなると思いますし、NPOセンターの実績にもつながっていくと思います。

あと、報告の時に思ったのですが、かなり山の上の方まで作っていらっしゃるので、建物からこのくらいなど図面などを見せていただけると、いいなと思いました。開館前に実際に見せていただきましたが、いい形でエリアを広げられているので、どのような形になったのかご報告いただけるとありがたいと思います。

　　**NPO法人かまくら冒険遊び場やまもり**

開館当初に見ていただいた敷地の部分から、少し上がった部分があり、幅は狭いのですが平地になっており、峯山につながる道もでき、会館に来る前にその部分で遊んでいく子どももいて、環境としてよかったと思っています。

　　　やはり急な坂道で、小さい子どもを連れていると遊びづらいので、遊びやすい平地ができたのはよかったと思っています。そこでブランコを設置したり、竹で秘密基地づくりをしたりしました。

**委員長**

ありがとうございます。他にご質問、ご意見はございますか。

最初のご報告で、小学校向けに写真入りのチラシを配布しました、とお話されていましたが、どのようなチラシを配ったのか、そのチラシでどのような効果があったのか、実績としてぜひご報告いただければと思いますが、チラシは何枚くらい配布されたのですか。

　　**NPO法人かまくら冒険遊び場やまもり**

　　　10,000枚程度配布しています。小学校だけで9,000枚くらいになりまして、ほか希望のある幼稚園や保育園にも配布しています。

　　**委員長**

　　　それだけたくさん配ると逆に混んでしまいそうな気がしまい運営大変なのではないかと思いますが、そのあたりのバランスが難しそうですね。

　　**NPO法人かまくら冒険遊び場やまもり**

普段の平日は、深沢地域の子がほとんどなので、制限人数を超えることはほとんどないのですが、夏休みは混んでいるときはお断りしたり、帰る時間を聞いたりして、何時以降であれば入れます、とい時間を区切って案内したりしていました。

　　　土曜日も比較的混みますが、密にならないよう屋外を案内するなど、バランスよく運営できたかなと感じています。

スタッフに地域の者がいるので、意見を聞きながら混みそうな日には外遊びに誘導できるよう、ブランコを設置したりなど準備するようにしていました。

　**委員長**

ほかにいかかでしょうか。

　**髙麗委員**

コロナ禍で一生懸命やっているのがよく伝わってくるご報告でした。

スタッフの方の人数と、実際に利用される方の人数の兼ね合いで問題がなかったのかという点が気になりました。のこぎりなど刃物を使うときなどは、どのように工夫していらっしゃったのか伺いたいです。

　　**NPO法人かまくら冒険遊び場やまもり**

夏休みなどは利用者が多かったので、エリアと時間を決めて運用していました。夏は外にスライダーを設置していたので、そこと木工にスタッフが必ず１人は配置していました。木工に関しては、見れる範囲のエリアで実施し、道具も１か所から貸し出すようにしていたので、誰が何本使っているという状況を見つつ、足りない場合は道具を増やすのではなく、他の遊びに誘導するなどの運用をしていました。

　　　また、夏休み以降は落ち着いていましたが、夏休みはスタッフを増やし、ボランティアさんにも入っていただいていました。

　　**委員長**

　　　ありがとうございます。他にいかがですか。

　　**河野委員**

　　　社会福祉協議会の河野と申します。初めて参加させていただきます。

　　　感想になってしまうのですが、協働事業ということでとても良い活動をしているなと思いました。事業開始から２年が経過したとのことで、実績も出てきたのではないかと思うのですが、お子さんが自然の中でのびのび遊ぶことができるとともに、お母さんの話し相手を見つける場にもなったり、地域の居場所になっていると感じました。

　　　まさしく地域の中で子育てができるという感じがしまして、これが深沢地域にしかないことがもったいないと感じました。

　　　例えば、駐車場などが整備されるともっと他の地域の方も来やすくなるのではないかと思いましたし、出張型の冒険遊び場があるというお話もありましたので、深沢を拠点としてもっと色々な場所で開催されるといいかなと思いました。

　　　また、説明の中でもおっしゃっていた、市の協力で市の公式LINEが効果的だというお話もありましたので、ぜひ行政の立場としては、こういった活動を全市的に広げていく、周知していくという良い協力関係が協働事業として出来れば良いと思いました。

　　**委員長**

　　　ありがとうございました。狭い鎌倉ではなかなか駐車場を整備するというのは厳しいかもしれませんが、他の地域から羨ましがられているのではないかなと思いますね。

　　　では、礒部委員お願いします。

　　**礒部委員**

　　　よろしくお願いいたします。

　　　羨ましがられている深沢小学校で良かったなと思います。

　　　来場者の内訳を見させていただいて、平日の午前中に小学生がいるということで、学校には足が向かない子どもや、学校に行っていない子が救われているということが大変有難いと思います。学校以外にもこのように関われる場所であるということは、本当に大切な場所だと感じました。

　　　誰かと約束して遊びに行くという子はたくさんいますが、遊び場に行けば誰かがいるから遊びに行ってくる、という感覚は私はとても良いなと思いましたし、「やってみたいをやってみよう」という発想も良いなと思いました。

　　　学校には、放課後かまくらっ子という放課後の子どもたちの居場所づくりを謳っている場所があるのですが、そことの違いというところで、色々な活動ができ、子どもたちが色々な人と手を結んで自分たちで活動を広げることができるという印象を受けました。そういった点を楽しみにしています。ありがとうございます。

　　**委員長**

ありがとうございました。深沢地域はとても環境がいいですね。

他にご意見やご質問はございますでしょうか。

　　**出川委員**

一つ付け加えてよろしいでしょうか。

　　　やまもりさんのご報告の中で、利用者の声がありましたが、良い意見や評価をする意見があるわけですが、活動として充実したより良いものにしていくためには、否定的な意見も抜き出していくべきなのかなと感じています。

否定的な意見が全く無いということもないと思いますので。

**委員長**

　　　ありがとうございます。大変大切な意見をいただきました。

　　　どうでしょうか。マイナス方面の意見もありますか。

**NPO法人かまくら冒険遊び場やまもり**

夏休み等は子どもの声がうるさいということで、もともと外で行っていた遊びを屋内でやるようししたり、開館当初は２階を使用しないことししていましたが、２階を利用できるようにしたりしました。また、会館の中だけでは子どもたちのストレスが溜まってしまうので、住宅街から離れた会館裏の山を切り開き、外の遊べるスペースを広げたりしました。

資料の中では、苦情を示していませんが、こうした新しい取組の中でそういったところをカバーしています。

　　**委員長**

ありがとうございました。こういった事業報告になると、どうしても良い側面を求めていってしまうところではありますが、こういう場で赤裸々にご報告いただいた方がよい場合もあります。

　　　例えば、周辺からの苦情があるというのは、行政側からアピールしたり、他の団体の力を借りたりなど色々な連携をしながら解決できる糸口も見つかり得るかな、と思います。

そういう意味では、悩んでいらっしゃることや難しいと感じていることをぜひご報告いただいて、こういう場合は行政側が対策をした方がよい、あるいは団体側から提言した方がよい等あると思いますので、より良いものを作っていくために遠慮なくご報告いただければと思います。

行政との関係についても、難しいことなどあればご報告いただきたいと思います。

　　　協働という意味ではそこがとても大切で、行政との信頼関係は報告書を見る限りでは万全だなという感じですが、こういうところが変えらるといいなといったことがもしあれば、ぜひお話いただきたいと思いますので。

**NPO法人かまくら冒険遊び場やまもり**

　　　いつも困ったら相談させていただいたり、利用者の声を聞いて、こうしたいと思ったことなどはお話させていただいたりしています。

近隣の方からのご意見などは、窓口として市に連絡がいくこともあるので、それに対して私たちは何ができるかな、という部分を勝手に動いて藪から蛇になってしまってもいけないので、一緒に考えて、支援課からご指導いただければと思います。

　　　内容を工夫することで変えられるようなことは、相談しながら進めていきたいと思います。

今年の夏は、特に利用者が多かったので木工の音がうるさいという苦情をいただいたり、開館時に火を使用していたのですが、煙の問題があったりして今は使えなくなったのですが、周りの様子を伺いながらいつか再開できるとよいなと思います。

**委員長**

ありがとうございます。周りとの関係性を悪くしてもいけないですし、そこは調整しなければいけないことではありますが、努力でできる部分については、一番大切な部分なので素晴らしいなと思いました。

一方で、行政や専門家など周りからの協力で解決できることがあるかもしれません。そういう意味では、風通しがいいというのが一番大事な部分だと思いますので、色々な形で相談したり、あるいは随時相談できるようなシステムがあればいいですね。

　他にご質問がある方はいらっしゃいますか。

**髙麗委員**

今までのことを伺っていて、そもそもの話で恐縮なのですが、協働事業ということで、１年間の計画を立てて許可をもらってやっているという認識でいいのでしょうか。たくさん新しい事業をやっているのは素晴らしいことだと思うのですが、そのあたりはどのような仕組みで実施しているのか疑問に思いました。

**中村係長**

負担金という形でやっているので、毎年協定を締結して実施しているのですが、１年間の計画などを予算の段階で確認させていただいて実施しています。先ほどのイベントの話であったりなどは、基本月１回実施のものをコロナの影響でカットさせてくださいなど、お願いさせていただいて予算を決めて、翌年度執行するという形を取っています。

**委員長**

　　　ありがとうございます。

　　　他にご意見やご質問はよろしいでしょうか。

　　　では、皆様からご発言もいただいたと思いますので、このあたりで質疑応答を終了させていただきます。では、これをもちまして協働団体及びこども支援課からの説明は終了となります。ありがとうございました。

それでは、事務局にお返しします。

４　閉会

**正木課長**

ありがとうございました。

先ほど、志村先生からもご指摘ありました、団体との関係性ですが、時には難しいご要望をいただくこともあるのですが、それに対して出来ないです、と厳しい回答をしてしまうこともあるのですが、そういった時でも団体さん側で工夫して下さって、お金のかからない方法を模索して、一生懸命やっていただいているので、一方的にこちらは嫌われているかもしれませんが、今後も充実した事業にしていければと思っております。

本日は、長時間にわたり、貴重なご意見を賜り、ありがとうございました。

冒頭申し上げました、意見回答用紙につきましては、委員会後にこども支援課までご提出をお願いいたします。

本日は、初めてのオンライン会議ということで、至らない点が多々ありまして、終了予定時間をかなり過ぎてしまい申し訳ございませんでした。

これをもちまして、令和３年度　鎌倉市冒険遊び場協働運営事業推進検討委員会を閉会とさせていただきます。

今後ともご協力のほど、よろしくお願いいたします。

本日はお忙しいなか、お集まりいただきありがとうございました。